

17日 全明 政治集会開く

今後の明大闘争の方向を占うものとして注目されていた、全共闘主催の「全学政治集会」は十七日和泉地区で開かれた。

集会は午後一時から第二校舎六番教室で予定されていたが、大学側は「混乱が予想される」としてこの日の午後の授業を全部休講措置にする旨、マイクで放送し、キャンパスに留まっている学生に対しては、即刻退去するよう何度も呼びかけた。シャット・アウトされた正門の外付近には、帰りそびれる学生、午後からの授業に登校した学生ら約一〇〇〇人が密集、また大学側の要請した(和泉学生課談)機動隊員の姿もみえた。

集まった約八〇〇人を前に全共闘の横谷優一君は「大学の数々の妨害行動をハネ返して克ち取った今日の政治集会は、学友諸君に勇気と力を与えた。われわれはそれだけの力を有している。全ての学友の奮発した討論によって、明大闘争の更なる前進、後期試験・入学試験紛争闘争を展開していきましょう」また二部共闘の本間慶君は「正常化という彼にのった大学立法の裏面的な適用、それを側面から援助しようとする右翼秩序派・日共民青の反革命を弾劾し、権力と一体となった大学当局に対する対決を強めよう」とそれぞれ訴えた。

その後、各学部闘争委、生田地区闘、新賛闘争委などから連帯の挨拶があり、また三里塚反対同盟の青年行動隊からも基調報告がなされた。